

「オーケストラ・キャラバン」は、文化庁のアートキャラバン2
(統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業)により開催されます。
新型コロナウイルス感染症によって、芸術に触れる機会が遠のいた人々に
再び芸術を鑑賞する喜びを体験していただくとともに、
文化芸術の質の向上や重要性と魅力の発信を目的として、全国各地で開催されます。
繊細な最弱音から迫力ある最強音まで、オーケストラの多彩な楽器が奏でる
「生」の音楽の魅力をお楽しみください。
みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

— 出演者プロフィール —

大井剛史(指揮)



©K.Miura

1974年生まれ。17歳より指揮法を松尾葉子氏に師事。若杉弘、岩城宏之、レヴァイン、マズア、ジェルメッティ、カラプチェフスキーの各氏から指導を受ける。東京藝術大学指揮科を卒業後、1999年同大学院指揮専攻修了。1996年安宅賞受賞。2000～01年、仙台フィルハーモニー管弦楽団の副指揮者として研鑽を積み、2007～09年、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団にて研修。2008年アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクールで第2位入賞。2009～16年までニューフィルハーモニーオーケストラ千葉(現・千葉交響楽団)常任指揮者、2009～13年山形交響楽団指揮者、2013～17年同正指揮者を歴任。現在、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者。このほかほとんどの国内主要オーケストラを指揮し、多彩なレパートリーと誠実な指揮でいずれも高い評価を得ている。新進作曲家の現代作品や、吹奏楽、オペラ、バレエ、など幅広い分野で意欲的に活動している。東京藝術大学音楽学部器楽科非常勤講師(吹奏楽)。尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。

小川葉奈(ソプラノ)



©FUKAYA Yoshinobu / auraY2

栃木県出身。東京藝術大学卒業。卒業時に松田トシ賞ほか受賞。同大学院オペラ専攻修士課程修了。第64回藝大大学院オペラ《魔笛》夜の女王役デビュー。小澤征爾音楽塾オペラプロジェクト、ラヴェル《子どもと魔法》火/お姫様/鶯のカヴァーキャスト。第20回松方音楽ホール音楽賞(歌曲部門最年少)、第46回イタリア声楽コンクール国際部門ロイヤルティガー大賞、第28回奏楽堂日本歌曲コンクールなど全8つに於いて優勝を果たす。海外では、オーストリアにて第23回F.タリアヴィーニオペラコンクールで奨励賞、ミラノにて第11回M.オリヴェロオペラコンクールでM.オリヴェロ賞。第88回日本音楽コンクール第2位及び聴衆賞。令和2年度文化庁新進芸術家研修制度に採択され2年間イタリアにて研修後、2022年小林研一郎指揮×日本フィルハーモニー交響楽団による「第九特別演奏会」にてソプラノソリスト。2023年日生劇場60周年記念公演オペラ「メデア」日本初演、グラウチェ役。三縄みどり、櫻田亮、M.グリエルミ、G.コスタンツォの各氏に師事。日本声楽家協会会員。小山評定ふるさと大使。

日本フィルハーモニー交響楽団



1956年6月に故渡邊暁雄を中心に創立。
「オーケストラ・コンサート」「リージョナル・アクティビティ」「エデュケーション・プログラム」という三つの柱で活動を行っている。
首席指揮者ピエタリ・インキネン、首席客演指揮者カーチュン・ウォン(2023年9月から首席指揮者)、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、桂冠名誉指揮者小林研一郎、フレンド・オブ・JPO

(芸術顧問) 広上淳一という充実した指揮者陣を中心に演奏会を行い、“音楽を通して文化を発信”している。
東日本大震災の被災地に音楽を届ける「被災地に音楽を」を2011年4月より開始、2022年末には320回を超えている。その活動が高い評価を受け、2022年第16回後藤新平賞を受賞。「温かさ」「人に寄り添う」の土壌を大切にしながら、あらゆる人々へ、世代へ、地域へ、音楽の持つ様々な力を社会に活かしていくことを目指している。

毎週水曜日22時54分～23時、BS朝日『Welcomeクラシック』出演中。

ホームページ <https://japanphil.or.jp>

公式Twitter @Japanphil